

項目	説明	
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	IVR-CT における CTHA 撮影条件の最適化 一希釈率再考と AI 再構成の応用一
	研究対象者	肝細胞癌と診断された患者さんのうち、2025 年 6 月から 2026 年 2 月の間に神奈川県立がんセンターで TACE（肝動脈化学塞栓療法）を受けられた方
	研究目的	当院では、肝臓のカテーテル治療（TACE）をより安全かつ確実にを行うため、CT 検査の技術的な精度管理を継続して行っています。 本研究では、使用するカテーテルの種類ごとに造影剤の濃度を最適化し、さらに最新の AI 画像処理技術を組み合わせることで、従来よりもさらに高精細な画像が得られるかを検証します。これは、診断・治療の質を常に向上させ、患者さんにより良い医療を提供するための取り組みです。
	研究方法	過去に当院で治療を受けられた患者様の画像データを使用し、カテーテルの種類による映り方の違いを分析します。 また、最新の AI 技術を用いて画像を再構成した場合に、血管がどれだけ鮮明に描出できるか、および機器への負担がなく安全に検査が行えるかを検証します。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないようにし管理します。
	研究期間	西 暦 2 0 2 6 年 3 月 9 日 ～ 西 暦 2 0 2 6 年 9 月 2 0 日
	利用又は提供を開始する時期	[<input checked="" type="checkbox"/>] 総長が研究実施を許可した日 [<input type="checkbox"/>] 西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）	[<input type="checkbox"/>] 試料:	[<input type="checkbox"/>] 血漿、[<input type="checkbox"/>] 血清、[<input type="checkbox"/>] 全血、[<input type="checkbox"/>] 末梢血から抽出した DNA、 [<input type="checkbox"/>] 病理検体(具体的に記載: _____)、 [<input type="checkbox"/>] 尿、[<input type="checkbox"/>] 糞便、[<input type="checkbox"/>] 唾液、[<input type="checkbox"/>] 胸水、[<input type="checkbox"/>] 腹水、[<input type="checkbox"/>] 脳脊髄液、 [<input type="checkbox"/>] 毛髪、[<input type="checkbox"/>] その他(具体的に記載: _____)
	[<input checked="" type="checkbox"/>] 情報:	[<input checked="" type="checkbox"/>] 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[<input checked="" type="checkbox"/>] 年齢、[<input type="checkbox"/>] 生年月日、[<input checked="" type="checkbox"/>] 性別、[<input type="checkbox"/>] 既往歴、[<input type="checkbox"/>] 併存疾患、[<input type="checkbox"/>] 外来日・入院日・退院日、[<input type="checkbox"/>] 臨床検査値、[<input type="checkbox"/>] 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[<input type="checkbox"/>] 臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、[<input type="checkbox"/>] ゲノムデータ、[<input type="checkbox"/>] 看護記録、 [<input checked="" type="checkbox"/>] その他(具体的に記載: CT 画像、造影剤希釈率)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター 研究責任者	所属・氏名 放射線診断技術科 笹尾忠弘
	共同研究機関 および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	施設名・所属・氏名・連絡先 神奈川県立がんセンター 放射線診断技術科 笹尾忠弘（内線 3322） 利用停止のお申し出は 2026 年 3 月 31 日までお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります	